

平成5年度畑作関係 除草剤試験成績概要

財団法人 日本植物調節剤研究協会 技術部

平成5年度畑作関係除草剤の試験成績中央検討会を平成5年12月3日、植調会館会議室において開催した。

本年度供試された畑作関係除草剤は、作用性試験7剤、適用性試験38剤であった。

このうち、適用性試験については、慎重に試験成績を検討し、実用化についての判定を行った。

その結果は、次表の通りである。

平成5年度 畑作除草剤試験中央判定および使用基準

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/ha	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
1. BAS-3510 Na [Ⓓ] 液剤 ・ペンタゾン Na ……40%	大 豆	実 ・継	一年生 広葉雑 草	茎 葉	生育期, 広葉雑 草3～ 6葉期	10m/	全土壌	温暖地 暖 地	1. 品種を限定して使用する。〔適用品種: アキシロメ, エンレイ, フクユタカ, ミヤギオオジロ, ナカセンナリ, オオツル, スズユタカ, タマホマレ, アヤヒカリ, 新丹波黒, 宇陀大豆, トヨシロメ, タチナガハ, 丹波黒, アキヨシ〕 2. 広葉雑草優占圃場で使用する。 3. 体系処理: イネ科雑草に有効な既登録土壌処理剤を使用する。	・薬量について再検討。 ・適用品種の拡大。 ・地域拡大。
2. BGX-816 水溶剤 ・ピアラホス …………8% ・グリホサート …………16%	かんし よ	実 ・継	一年生 雑草全 般	茎 葉	挿苗ま たは耕 起10日 以前	40～ 60 g	全土壌	温暖地 暖 地	1. 周辺作物に飛散しないように散布する。	・散布水量を含め効果の確認。

薬 剤 名	作物名	中央 判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 製品/a	適用土 壌	適用地 帯		使用上の注意
2. BGX-816 水溶剤 (つづき)				茎 葉 (畦間)	生育期	40～60 g (水 量 5 ～ 10 l)			1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 作物にかからな いように散布す る。 3. 雑草草丈15cm以 下で使用する。	
	こんに ゃく	実・継	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後 または 培土後、 萌芽前	40～60 g (水 量 5 ～ 10 l)	全土壌	寒冷地 温暖地 東部	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。	・効果の再確認 必須。
				茎 葉 (畦間)	生育期				1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 作物にかからな いように散布す る。 3. 雑草草丈15cm以 下で使用する。	
3. CG-123 フロアブル ・アトラジン ……………15% ・メトラクロ ール……………25%	とうも ろこし	実・継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後、 雑草発 生前	20～ 40m/l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地 寒冷地		・イチビに対す る効果につい て再確認。 ・地域拡大。
						10～ 30m/l	火山灰 土	温暖地		
								暖 地		
				茎 葉	とうも ろこし 2～4 葉期	20～ 30m/l	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地	1. 生育の遅れる地 域 (根釧など) では2葉期処理 とする。	
						30～ 40m/l (但し、 イチビ には40 ～ 60 m/l)				
4. Hoe-171-S 乳剤 ・フェノキサ ップーPー エチル…6%	大 豆	実・継	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～ 5 葉 期	5 ～ 7.5m/l	全土壌	全 域	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。 3. スズメノカタビ ラは除く。	・効果の再確認 必須。

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
4. Hoe-171-S 乳剤 (つづき)	小 豆	実	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草3 ～5葉 期	5～ 7.5m/	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。 3. スズメノカタビ ラは除く。	
	菜 豆	実	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草3 ～5葉 期	5～ 7.5m/	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。 3. スズメノカタビ ラは除く。	
	かんし ょ	実	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草3 ～5葉 期	5～ 7.5m/	全土壌	温暖地 暖 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。 3. スズメノカタビ ラを除く。	
	てんさ い	実	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草3 ～5葉 期	5～ 7.5m/	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する。 3. スズメノカタビ ラを除く。	
5. Hoe-86610 液剤 ・グルホシネー ト……8.5%	大 豆	実・ 継	一年生 雑草全 般	茎 葉	播種前	40～ 75m/	全土壌	寒冷地 以西	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 雑草草丈20cm以 下で使用する。	・効果の再確認 必須。
6. HSW-922 乳剤 (EW) ・チフェンスル フロンメチル ………2% ・IPC…30%	大 豆	継								・効果、薬害の 再検討。
	小 豆	継								・効果、薬害の 再検討。
	菜 豆	継								・効果、薬害の 再検討。

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
7. HSW-9104 乳剤 ・フェンメディ ファム…10% ・デスメディフ ァム…2.3% ・メトラクロ ール……12%	てんさい	実	一年生 雑草全 般	茎 葉	てんさい 活着 後、雑 草発生 前期	50 g	全土壌 (砂土 を除く)	寒 地		
8. JT-101乳剤 ・ペラルゴン酸 ……52%	落花生	実	一年生 雑草全 般	茎 葉 (畦間)	生育期	500～ 1,000 ml	全土壌	温暖地 暖 地	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 作物にかからな いように散布す る。 3. 雑草草丈15cm以 下で使用する。	
	ばれい しょ	実・ 継	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後、 萌芽前	500～ 1,000 ml	全土壌	寒冷地 以西	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する。 2. 雑草草丈15cm以 下で使用する。	・地域拡大。 ・効果の再確認。
9. KUH-901 乳剤 ・ベンチオカー ブ……50% ・リニュロン ……7.5% ・ペンディメタ リン……5%	大 豆	実・ 継 (前年 通り)	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	60～ 80ml	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 以西	1. 砂の多い土壌で は使用量を少な めにする。	・地域拡大。
	菜 豆	継								・効果、薬害の 再検討。
	とうも ろこし	実・ 継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	60～ 80ml	全土壌 (砂土 を除く)	全 域		・寒地での効果 の確認。
	ばれい しょ	実・ 継	一年生 雑草全 般	土 壌	植付後	60～ 80ml	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地		・地域拡大。 ・効果の再確認。 ・適用土壌の拡 大。
						火山灰 土	暖 地			
10. KUH-901 細粒剤 ・ベンチオカー ブ……8% ・リニュロン ……1.2% ・ペンディメタ リン…0.8%	大 豆	実	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	400～ 500 g	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 以西	1. 碎土、覆土、整 地は丁寧に行い 均一に散布する。	

薬 剤 名	作物名	中央 判定	使 用 基 準						使用上の注意	継 の 内 容
			対象雑 草	処理方 法	処理時 期	使用量 製品/a	適用土 壌	適用地 帯		
10. KUH-901 細粒剤 (つづき)	とうも ろこし	実 ・継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	400～ 500g	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地	1. 砕土, 整地, 覆 土は丁寧に行い 均一に散布する.	- 効果の再確認. - 適用土壌の拡 大.
							火山灰 土	暖 地		
	ばれい しょ	実 ・継	一年生 雑草全 般	土 壌	植付後	400～ 500g	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地	1. 砕土, 整地, 複 土は丁寧に行い 均一に散布する.	- 薬量 (300g) に ついて再検 討. - 効果の再確認. - 適用土壌の拡 大.
							火山灰 土	暖 地		
11. Mon-8794 液剤 ・グリホサート ………20%	<u>こんに ゃく</u>	実 ・継	一年生 雑草全 般	茎 葉	植付後 または 培土後, 萌芽前	30～ 50ml/ (水量 2.5l)	全土壌	寒冷地 温暖地 東部	1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する. 2. 少量散布の場 合は専用ノズル を使用し均一に 散布する.	- 効果の再確認 必須 - 散布水量 5 l での検討.
				茎 葉 (畦間)	生育期				1. 周辺作物に飛散 しないように散 布する. 2. 作物にかから ないように散布 する. 3. 雑草草丈15cm 以下で使用する. 4. 少量散布の場 合は専用ノズル を使用し均一に 散布する.	
12. NC-302㊦ フロアブル ・キザロホップ エチル……10%	ばれい しょ	実	一年生 イネ科 雑草	茎 葉	イネ科 雑草 3 ～5葉 期	10～ 12.5 m/	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占 圃場で使用する. 2. 体系処理: 広葉 雑草対象の既登 録土壌処理剤を 使用する. 3. スズメノカタビ ラを除く.	
						7.5～ 10m/		寒冷地 以西		
13. PL-10 乳剤 ・ベンディメタ リン……15% ・リニュロン ………10%	<u>とうも ろこし</u>	実 ・継	一年生 雑草全 般	土 壌	播種後	40～ 60ml	全土壌 (砂土 を除く)	寒冷地 温暖地		- 効果の再確認. - 地域拡大. - 適用土壌の拡 大.
							火山灰 土	暖 地		

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						継 の 内 容	
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		使用上の注意
14. PL-10 細粒剤 ・ベンディメタリン…1.5% ・リニュロン ……1.0%	とうもろこし	継								・効果、薬害の再検討。
	こんにゃく	継								・効果、薬害の再検討。
15. S-604 乳剤 ・クレソジム ……25%	大 豆	実・継	一年生イネ科雑草	茎 葉	イネ科雑草3～5葉期	1.5～2.5m/ (オイル2.5m/加用) 2.5～5m/ (5m/はオイル無加用)	全土壌	寒 地 寒冷地 温暖地 寒冷地	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・地域拡大。
	小 豆	実・継 (前年通り)	一年生イネ科雑草	茎 葉	イネ科雑草3～5葉期	1.5～2.5m/ (オイル25 m/加用)	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・オイル無加用での効果、薬害の検討。
	てんさい	実・継 (前年通り)	一年生イネ科雑草	茎 葉	イネ科雑草3～5葉期	1.5～2.5m/ (オイル25 m/加用)	全土壌	寒 地	1. イネ科雑草優占圃場で使用する。 2. 体系処理：広葉雑草対象の既登録土壌処理剤を使用する。	・オイル無加用での効果、薬害の検討。
16. SB-508乳剤 ・ジメテナミド ……76%	とうもろこし	実・継 (前年通り)	一年生イネ科雑草	土 壌	播種後	10～15 m/	全土壌 (砂土を除く)	寒冷地以西		・生育初期処理について再検討。 ・地域拡大。
17. SL-160水和 ・フラザスフロロン…25%	さとうきび	継								・効果、薬害の再検討。
18. SNC-105 フロアブル ・フルメツラム ……12%	とうもろこし	実・継 (前年通り)	一年生広葉雑草	土 壌	播種後	4～6m/	火山灰土	寒冷地以西	1. 体系処理：イネ科雑草対象の既登録除草剤を使用する。	・地域拡大。 ・適用土壌拡大。 ・イチビについて効果の再検討。
				茎 葉	とうもろこし2～3葉期		全土壌 (砂土を除く)	寒冷地		

薬 剤 名	作物名	中央判定	使 用 基 準						使用上の注意	継 の 内 容
			対象雑草	処理方法	処理時期	使用量 製品/a	適用土壌	適用地帯		
18. SNC-105 フロアブル (つづき)							火山灰土	温暖地 暖 地		
19. SSH-130 粒剤 ・ペンディメタリン…1.25% ・トリフルラリン……1.25%	こんにゃく	実・継	一年生 雑草全般	土 壌	植付後 または 培土後	400～ 600g	全土壌 (砂土を 除く)	寒冷地	1. キク科雑草、ツ ユクサを除く。 2. 碎土、整地、覆 土は丁寧に行い 均一に散布する。	・適用土壌の拡大。
							火山灰土	温暖地 東部		
	陸 稲	継								・効果、薬害の 再検討。
20. トリフルラリン 乳剤 ・トリフルラリン……44.5%	小 豆	実・継 (前回通り)	一年生 雑草全般	土 壌	播種後	25～ 30ml	全土壌	寒冷地 温暖地		・地域拡大。
	菜 豆	継								・効果、薬害の 再検討。

新刊

SHIBUYA INDEX

—Index of Pesticides—

1993年版

(英語版)

渋谷成美・ほか／編集 A4判 850頁 定価30,000円(税込)

1978年に第1版を発行して以来、簡便に使える農薬リストとして知られていた本書の第6版。世界の農薬すべてを網羅し、一般名、商品名、コードナンバー、メーカー名、構造式、適用場面、特性を記載。単剤3,300余種を構造別に整理し、関連化合物の検索も容易にできる。また、混合剤で4,100余種も掲載。

呈内容見本

全国農村教育協会 〒110 東京都台東区台東1-26-6(植調会館) 電話/03-3833-1821 FAX/03-3833-1665

新刊

改訂 雑草学用語集

日本雑草学会／編集・発行

B5判 234頁 定価7,210円(税込)

雑草を研究する上で必須の文献として高い評価を受けてきた旧版を大幅に改訂。雑草学研究に必要な用語はこれ1冊でこと足りるようという編集方針のもと、第I編 学術用語編では現時点で必要な用語、解説用語を新たに選び直した。さらに第II編 雑草名編では新たに100種を追加し、第III編 除草剤名編では新たな薬剤も加え、わが国で登録されたことのある薬剤すべてを網羅した。

呈内容見本

全国農村教育協会 〒110 東京都台東区台東1-26-6(植調会館) 電話/03-3833-1821 FAX/03-3833-1665